

## 水産用ワクチンの購入手続き等について

長崎県総合水産試験場

環境養殖技術開発センター 養殖技術科

水産用ワクチンについては、過去に何度かこの紙面で紹介されていますが、今回は水産用ワクチン使用指導書の交付手続きを改定しましたので、改めて水産用ワクチンの購入手続き等について紹介します。

### 水産用ワクチンの種類について

海産魚のための水産用ワクチンは平成9年にブリの連鎖球菌症の予防用ワクチンが承認されたことにはじまり、その後、毎年のように新しいワクチンが承認され、平成14年6月20日現在では、餌に混ぜて与える経口用ワクチンが2種類、連続注射器を用いて接種する注射用ワクチンが3種類の合計5種類の水産用ワクチンが承認されています。(表1)

### 購入手続きについて

水産用ワクチンを使用しようとする場合には、ワクチンの種類や使用方法について注意の上、水産用ワクチン使用指導書交付申請書(以後「申請書」という)を所属する漁業協同組合(以後「漁協」という)を通じて長崎県総合水産試験場(以後「水試」という)に提出し、水試から交付された指導書を添えて動物用医薬品販売業者(以後「販売店」という)に当該ワクチンの購入を申し込むようにしてください。販売店は水試が交付した指導書を有する者にのみ、当該ワクチンを販売することができます。(図1)

ただし、注射用ワクチンについては、使用できる条件として、接種作業者は水試が実施する水産用ワクチン注射技術の講習会を受講しておく必要があるので注意してください。

具体的には、水産用ワクチンの使用開始予定日よりおよそ5日前に申請書を、必ず所属する漁協を通じて水試に提出してください。

漁協では、申請書を水試にファクシミリで電送するとともに郵送します。

水試では、電送されてきた内容を審査し、一両日中に水産用ワクチン使用指導書(以後「指導書」という)を交付します。

指導書は、水試から漁協に電送されると同時に郵送されます。

水産用ワクチンを使用しようとする者は、とりあえず電送されてきた指導書で当該ワクチンを購入することができますが、郵送されてくる指導書を後で必ず販売店に提出しなければなりません。

また、指導書と一緒に使用結果報告書の様式を同封しますので、ワクチンの使用後、6ヶ月以内に使用後の結果を記入の上、必ず水試に提出してください。

なお、申請書の様式は漁協や水産業普及指導センターから入手できます。また、インターネットを利用すれば水試のホームページ(<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp>)からダウンロードすることもできます。

### 申請書を記入する時に特に注意する点

申請書は、魚群や管理状況などの養殖実態と健康状態などについての問診も兼ねており、申請書の内容に従って審査が行われます。

ワクチンには使用可能な魚種や病気の種類、魚体重の範囲・投与方法・投与量・水温などの使用条件が決まっていますので、少なくともワクチンを使用する当日には、これら条件がワクチンの使用説明書の内容に沿ったものであることが必要です。

また、ワクチンは魚の健康状態により効果が大きく左右されますから、魚が健康であることが重要です。さらに、薬剤投与後の場合は、ワクチンを使用しようとする日が投薬終了後1週間程度経過している必要があります。

経口用ワクチンと注射用ワクチンでは、申請書の様式が若干異なるので注意してください。注射

用ワクチンの申請書には、ワクチン接種作業員名を記入する必要がありますが、接種作業員1人が1日に接種できる魚は約3,000尾と考えてください。

ワクチンは、一旦開封してしまえば長期保存はできません。また、魚群の健康状態も良好な状態が長く続くとは限りませんので、注射用ワクチンの場合は3日間以内に終了するように計画してください。

ンの投与を中止して、近くの水産業普及指導センターか水試に相談してください。

### 今後の手続き上の注意点

水産用ワクチンについては、今後新たに承認されて種類が増加することが予想されます。申請書の様式は、新たなワクチンが承認される都度、若干の変更が加えられますので、毎回、漁協等から新しいものを入手するようにしてください。

### ワクチン投与時に注意する点について

(担当 高見生雄)

ワクチンの投与には経口用ワクチンの場合は5日間、注射用ワクチンでも最大で3日間は要しますので、ワクチン投与期間中に魚が発病する可能性もあります。発病した場合は、直ちにワクチ

表1.平成14年6月20日現在で承認されている水産用ワクチン一覧

医薬品名	対象魚	効能・効果	用法	用量
ピシバック レンサ	ブリ(約100~300g)	溶血性連鎖球菌症の予防	経口	10mL/kg/日を5日間投与
アマリンレンサ	ブリ(約100~400g)		経口	初回投与は0.5mL/kg/日を5日間投与 追加投与は初回投与から約3ヶ月後に0.125mL/kg/日を5日間投与
ポセイドン「レンサ球菌」	ブリ属魚類 (約30~300g)		注射	腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射する
イリドウイルス不活化 ワクチン「ビケン」	マダイ(約5g~約20g)	イリドウイルス感染症の予防	注射	腹腔内又は筋肉中に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射する
	ブリ(約10g~約50g)			麻酔処理したブリの腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射する
	シマアジ (約10g~70g)			麻酔処理したシマアジの腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射する
ピシバック注 ビブリオ+レンサ	ブリ(約30g~約150g)	溶血性連鎖球菌症 及び ビブリオ病の予防	注射	麻酔処理したブリの腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射する

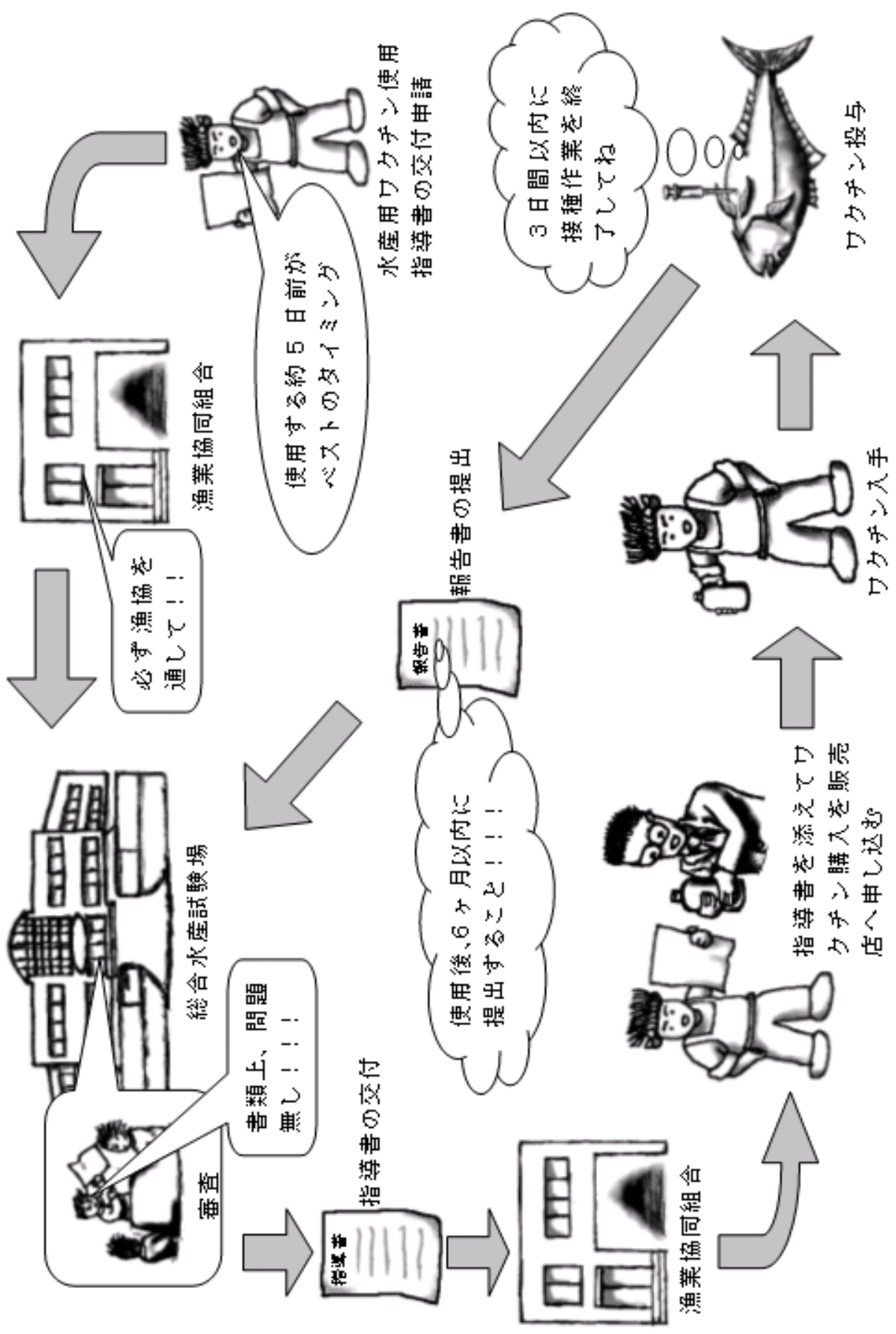


図1. 水産用ワクチンの入手から使用結果報告まで